川口 満浩 議員が問う

環境

廃食用油の回収と再利用の状況は

質問を終えて

使う責任として、町民や事業者の協力のもと、油の回収と再利用の取り組みを強化し、地球温暖化対策の一翼を担ってもらいたい。

映像はこちら

川口 多くの自治体で、ゼロカーボンシティの取組の一環として廃食用油の回収を推進している。廃食用油が、地球温暖化対策に貢献する貴重な資源として活用されるためである。使用済みの油は廃棄されるが、町内の廃食用油の回収状況を伺う。

地域振興課長 市販の凝固剤で固めたり、布や紙に吸わせ可燃ごみとして処理されている。公共施設やスーパーなどの拠点回収は行っていない。

川口 小学校で、調理後の給食用廃油はどのように処理をされているのか伺う。

学校教育課長 学期末など定期的にリサイクル業者へ引き渡し、適正に処理を行っている。

川口 保管方法や管理体制は

学校教育課長 安全面、環境面に配慮して購入時の一斗缶に戻して保管、管理を行っている。

川口 廃食用油の回収は、多くの自治体で積極的に推進しているが、廃食用油を回収した際の活用状況を伺う。

地域振興課長 バイオディーゼル燃料として活用されている。廃食用油の分別回収は、ステーションへの持ち込みになることが予想され、リサイクルボックス同様、指定日に限らず排出することが可能になるメリットがある。

川口 今後行政として、企業、店舗あるいは町民から出る廃食用油回収の考えを伺う。

地域振興課長 油の分別回収は検討準備を進める

事業所から排出される廃油、いわゆる産業廃棄物の回収は考えていない。家庭から排出される廃油、一般廃棄物については、クリーンパークの新設稼働までには回収したいと考えている。

川口 廃食用油の再利用に向けて何が課題になるのか伺う。

地域振興課長 ステーション回収になると場所の選定、ストックヤードにかかる費用などが課題になると考えられる。

川口 町民一人一人が日々の生活の中で、CO_2排出削減に貢献できる身近で効果的な取組のひとつである。地球環境を壊さない、循環型社会の手本になると考える。

地球環境を壊さない燃料に変わる廃食用油

※質問した議員自身の責任でまとめた原稿を、そのまま掲載しています。詳細は、映像配信をご覧ください。

田ノ上 真 議員が問う

福祉

男性用サニタリーボックスの設置を

質問を終えて

小さなことの積み重ねが、住みやすさの実感を変えていきます。速やかな実施という結論に至り、執行部には感謝しています。

映像はこちら

田ノ上 役場男性用トイレの個室には、サニタリーボックスが整備されていない。現在高齢化の進展や、前立腺がん・膀胱がん治療後の後遺症により、尿漏れパッドや、成人用おむつを使用する男性が増加している。

これらの利用者が安心して外出し、社会参加を続けるためには、男性トイレにおいても、衛生的に廃棄できる環境整備が不可欠だ。同設備がない場合、パッドなどを流してしまうなどにより、トイレ詰まりや衛生問題につながる恐れがある。

また、男女平等の観点からも、女性トイレ同様に男性トイレにも設置することは必要であり、公共施設のバリアフリー化の一環としても重要だ。

なお、プライバシーの観点からも個室への設置が必要と考える。今後の整備方針について伺いたい。役場庁舎以外の他の公共施設・学校には設置されているか。

総務課長 現状、須恵町役場庁舎、役場以外の公共施設については、ほたるの湯の男子トイレ個室2室中1室のみ設置がある状況で、その他の施設には設置がされていない。

田ノ上 設置されていない理由が特にあれば説明を願いたい。

総務課長 特段の明確な理由はない。経緯としては、役場においては、令和4年度のトイレ洋式化工事の際に、必要性が低いと判断して設置を見送った。

役場以外の公共施設についても同様の認識だ。

田ノ上 今後整備していく方針はあるか。

総務課長 速やかに設置を進めていく

近年の利用者ニーズの変化や議員の御指摘のとおり、誰もが利用しやすいユニバーサルなトイレ環境の整備という観点から、男性用トイレのサニタリーボックスの設置は必要性が高まっていると認識している。

役場のみならず、その他の公共施設においても速やかに設置を進めていく。

公共の施設で完備されます！

※質問した議員自身の責任でまとめた原稿を、そのまま掲載しています。詳細は、映像配信をご覧ください。